



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



カラマツ黄葉写真コンテスト優秀賞「カラマツ万歳」 撮影箇所：長野市戸隠

主な項目	○ 公共施設にもっと木材を！…………… P2
	○ 国産材型枠合板の実証試験現地検討会を開催…………… P2～3
	○ 林政記者クラブの国有林視察実施…………… P3
	○ 各地からのたより…………… P4～6
	○ シリーズ「森林官からの便り」…………… P6～7
	○ シリーズ「ご当地自慢」…………… P8

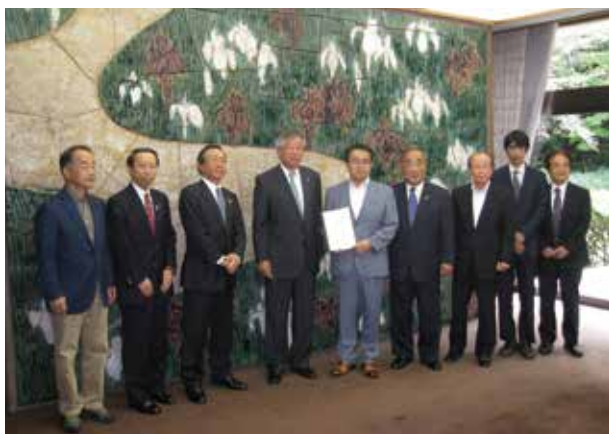
公共施設にもっと木材を！

愛知県知事・名古屋市長に

木材利用促進要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月八日（火）に、愛知県木材利用推進協議会（鈴木和雄会長）と同行した名古屋事務所所長は、愛知県庁、名古屋役所、東海農政局などに木材利用促進に関する要望活動を行いました。

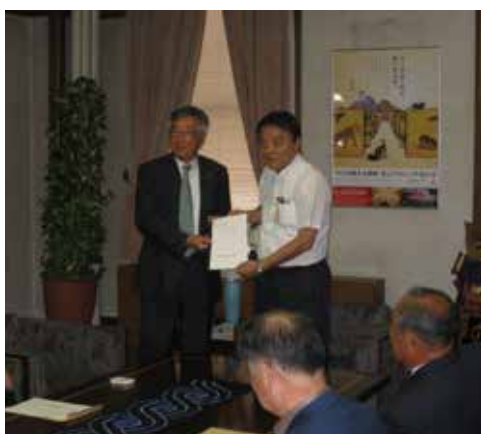
愛知県庁では大村知事や関係部局が出席し、要望書を手渡し公共建築物に木材を多く使用するように要望、理解と支援をお願いしました。



愛知県知事への要望活動

また、名古屋役所では、河村市長に面談し、公共建築物の木造促進に関する

市町村の基本方針策定を早く決定してほしいと要望しました。河村市長から、小学校木造化について鉄筋で建設するよりも見積もりが高く断念したいきさつの説明があり、名古屋木材組合で設計に当たってフォローしていくことに。また、名古屋のシンボルとなる名古屋城天守閣を木造で復元するという強い考えも示されました。



名古屋市長への要望活動

岐阜県知事に木材利用促進要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月二十九日（火）に、岐阜県木材利用推進協議会（後藤直剛会長）と中部森林管理局が連携し、木材利用の推進に関する要望活動を行いました。

岐阜県知事をはじめ、教育委員会、県議会議長、林政部に対して、「木材の利用促進に関する要望書」を手渡して、公共建築物の木造化、公共工事における木

材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進を訴え、理解と支援をお願いしました。

知事からは、「協議会の皆様とはこれまで二人三脚で行ってきた。これからもよろしく願います。また、平成二十七年に行われる『第三十九回全国育樹祭』を清流国体と同様に県民参加の形で盛り上げていきたい。」など、理解ある意見をいただきました。



岐阜県知事への要望活動

国産材型枠合板の実証試験 現地検討会を開催

「治山課」十月三十一日に中信署姫川地区の土谷川において、国産材型枠合板を使用した治山工事の実証試験について現地検討会を開催しました。

この実証試験は、公共土木工事で使用

するコンクリート型枠材の多くが、金属製のパネルや南洋材を用いた合板であることから、国産材を用いたコンクリート型枠合板の普及を図るため、中部局、長野県及び信州大学が協同で進めてきたものです。

実証試験では、長野県産ヒノキ間伐材による五層構造の合板を使用し、一般的な南洋材合板と比較しながらコンクリート谷止工を施工しており、型枠合板の「たわみ」、「はらみ」によるコンクリート表面の凹凸や打ち継ぎ目に発生した段差、塗装の着色、ムシレなどの損傷状況について、使用した型枠合板や施工したコンクリート表面を確認し、施工に当たった問題点の把握、また今後の改善点等について検討を行いました。



現地検討会の様子



木曽官材市売協同組合坂下素材土場の視察

【総務課】十一月七日・八日の両日、林政記者クラブ（中部森林管理局管内加盟社）の国有林等視察を実施しました。

林政記者クラブ五社からは五名が参加し、森林管理局からは次長、総務企画部長、名古屋事務所副所長、広報主任官が同行し、木曽署及び南木曽支署から各現場等で説明を行っていただきました。

林政記者クラブの 国有林視察実施



検討会では、コンクリート表面の仕上がりや型枠合板の損傷状況等が、国産材合板と南洋材合板に遜色がないことや、金属製に比べ軽量であることが報告されました。今後は、型枠合板の転用（使用）回数の確認、施工歩掛等について検証することとしており、国産材型枠合板の利用推進にむけた取り組みを進めていくこととしています。

一日目は、今年度から木曽谷で、中部局が初めて取り組んでいる、人工林ブランド化「マルコウ・マルコク木曽ひのき」を森林の状態から製品が出来上がるまでを視察しました。

森林は大桑村阿寺国有林の今年度伐採箇所（林齢百十九年生）を、丸太は中津川市の木曽官材市売協同組合坂下素材土場を、柱等の製品は上松町の木曽官材製品展示場を見ていただき、署及び木曽官材からそれぞれの段階で留意や工夫していること等の説明を行いました。記者からは各視察箇所様々な質問もいただきました。



木曽官材製品展示場の視察

木曽官材では柱等の製品にも「高・国木曽ひのき」を冠して販売しており、一



長野県西部地震治山施工地展望台での記者の皆さん

貫した視察を通じて、人工林ブランド化の取り組みについて、より一層理解していただけたのではないかと考えています。なお、当日は雨のため伐木集造材作業の視察が出来なかったことは残念でした。

二日目は、王滝村の長野県西部地震治山施工地（伝上川・濁川）の視察を行いました。

当地は、地震発生（昭和五十九年九月十四日八時四十八分発生）から三十年を迎えようとしています。これまでの施工の成果や森林ボランティア等の協力を得て森林に還元している状況等の視察をしていただきました。



小林ヘギ板店の視察

続いて、国有林材を原材料としてヘギ板を作製している上松町の小林ヘギ板店を訪ね、職人技を視察しました。次に、中部局から木曽町へ譲渡した旧帝室林野局御料庁舎の木曽町での保存・改修工事（当時の仕様を復元し保存するため工事を施工中）を視察しました。

中部局が地域に貢献しながら事業に取り組んでいる点等のPRが出来たのではないかと思います。

各視察箇所、記者からは多くの質問もいただき、有意義な視察となりました。

今後もこのような機会を設け、中部森林管理局の取り組みについて、効果的に情報発信していきたいと考えています。

准フォレスター

連携会議の開催

「技術普及課」准フォレスター研修修了生が一堂に会し、准フォレスターとしての活動報告、現地検討会を通じ、今後の准フォレスターとしての活動に生かすことを目的に各県・府・市民有林関係者十七名（うち研修修了生十六名）、中部森林管理局から十九名（うち研修修了生九名）参加のもと准フォレスター連携会議を十一月六日から七日にかけ岐阜県下呂市、中津川市で開催しました。



連携会議参加者の方々

一日目の全体会議では、准フォレスターとしての活動報告を各府県参加者から七課題、中部森林管理局参加者から三課題の計十課題の発表が行われました。民国准フォレスターが連携した森林共同施業団地設定への取組や准フォレスターと森林施業プランナーとの連携事例の発表など、それぞれの担当する地域や役割によって具体的な活動内容や活動するうえでの問題点等が発表され、発表を聞いた参加者からは准フォレスターとしての取組を具体的に知ることができ、また、他県の活動から共通点や相違点がわかったなどの感想がありました。

二日目は、現地検討会として、岐阜森林管理署管内乗政国有林の架線集材箇所において、架線集材の概要について岐阜署柴山森林技術指導官、井上森林技術・支援センター所長より説明、一般材比率の向上と有利販売のための採材・仕分けについて松本森林整備部長より説明、採材木を見ながらの検討を行いました。地形や集材量等によっては有利なエンドレスタイラー式による架線は、近頃は見かけなくなり、技術の継承の面からも現状を知っていただき、また、傷や曲りを避けて採材することで、価格面に大きな差が出ることを再認識していました。

その後、東濃森林管理署管内加子母裏木曽国有林の木曽ヒノキ備林に移動し間島東濃署長、鈴木森林整備官の案内で、本年執り行われた第六十二回神宮式年遷



現地研修の様子

宮御用材伐採跡地の見学や岐阜県の名木にも指定されているヒノキとサワラの合体木を見学しました。参加者からは以前から見たかった木曽ヒノキ備林が見られて良かった、是非研修の場として使わせてほしいといった意見がありました。

二日間を通じ研修生間の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となり、次回開催を望む声もありました。このため、意見交換会の時間の設定や、現地検討会のメニューなど検討し、准フォレスターのフォローアップ、連携の取組を進めていく予定です。

各地からのたより

カラマツ新緑写真コンテスト

入選作品を撮影地の町村へ贈呈

「東信署」本年度実施したカラマツ新緑写真コンテスト入選作品を十一月五日に、署長より作品の撮影地である佐久穂町、小海町、南牧村の各町村長へ贈呈しました。

佐久穂町長からは、「青年団や消防団に所属していた頃に植林したカラマツである。すばらしいパネルをいただいた。八千穂庁舎に飾りたい。」



佐々木佐久穂町長へパネルを贈呈

小海町長からは、「町木がカラマツであり、小海町にあったパネルをいただきたい。額縁が天然カラマツであることもすばらしい。庁舎ロビーに飾り、広報誌に



菊池南牧村長へパネルを贈呈

南牧村長からは、「カラマツは、新緑も美しく、すばらしいパネルをいただいた。早速、村民にも見てもらえるよう飾りたい。」と各町村長にはパネルの贈呈を大変喜んでいただきました。



新井小海町長へパネルを贈呈

も掲載したい。」

王滝森林鉄道

フェスティバル2013

「木曽ヒノキを載せて走る」

【木曽署】十月六日「王滝森林鉄道フェスティバル2013」が王滝村の松原スポーツ公園で開催され、澄み切った秋晴れの中、鉄道ファンや家族連れが訪れ、復元された林鉄を撮影したり、客車に乗り小さな旅を楽しんでいました。



客車への体験乗車

このフェスティバルは、三十八年前に廃止された森林鉄道の歴史を伝えようと、村内外の有志による「王滝森林鉄道の会」が主催したもので、当公園内に約一キロメートルの線路を整備し、平成十七年に初めて開催、今回が四回目となります。

今回も「運材列車」には、国有林から切り出された樹齢三百年の木曽ヒノキ十六本を二台の台車に満載し、汽笛を響かせながら走ると、線路沿いに陣取った林鉄ファンが盛んにシャッターを切る姿が印象的でした。



運材の実演

運材列車と並行し、客車やミニSLの体験乗車の他モーターカーやタンク車も運行され、整理券を求める人が朝から列を作り、最終便が運行された午後三時までに約千人の入場者で賑わいました。

当会場では、地元の農産物や焼きそばなどの出店もある中、森林管理署コーナーでは中部局で所有する「森林鉄道」や「木曽式運材」のパネルを展示しました。

また、サブイベントとして、王滝国有林に所在する東俣風致探勝林のハイキングが行われ、色づき始めた紅葉の中での森林浴は好評でした。

今回は二年後の開催となりますが、国有林で活躍していた森林鉄道が、地元の暮らしにも華々しく貢献していた歴史の中で、このようなイベントには、今後とも連携して取り組み、地域との絆を大切にしたいと考えています。

地域のイベントに参加

「名古屋事務所」暑かった夏も十月になれば...と思いきや、「藤前干潟ふれあいデー」が開催された十月五日は、天候も良く十月とは思えない暑い陽気となりました。



マイ箸づくりの様子

このイベントは、庄内川等の河口に広がる藤前干潟が、ラムサール条約湿地に登録されて以降毎年開催されています。今年は十年目を迎え、会場には三千九百人の方が訪れました。

名古屋市や環境省からなる実行委員会形式で運営される中、中部森林管理局からは「僕の私のマイ箸を作るのだ」と題し、ヒノキの間伐材をカンナで削って箸を作るワークショップを開設。カンナを上手に扱う子も、なかなか上手く削れない子も、完成したマイ箸のヒノキの香りを楽しみ、大事そうに笑顔で持ち帰っていました。



ストラップづくりの様子

また、十月十三日は名古屋事務所のお膝元、「熱田区の区民祭り」が開催されました。

この日も晴天に恵まれ、会場となった白鳥公園には一万九千人の区民が訪れま

した。

中部森林管理局では「サクラの枝を使ったストラップづくり」のコーナーを開設、所長以下名古屋事務所の職員が対応しました。

地域の一員として参加したこの取組は、木材利用のPRを兼ねた取組でもあり、今後もしっかり継続していくことが必要と感じました。

木造校舎

実大火災実験が行われる

【岐阜署】十月二十日、岐阜県下呂市御厩野（民地）において、木造三階建校舎実大火災実験（建築面積三百十平方メートル・延べ面積八百五十平方メートル）が行われました。

本実験の趣旨は、建築基準法で三階建ての学校については耐火建築物とすることが義務づけられていますが、「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」において、建築物における建築材料としての木材利用を促進する観点から、建築基準の規制について、必要な研究の上で見直しを一層推進するよう規定されており、一定の仕様等を満たした場合は準耐火建築物とすることが可能となるよう、実際の建物で火災実験を行い検証するものです。

国土交通省が平成二十三年度から実験を行っており、今回が三回目の実験となり、一階の職員室から出火した設定で、

午前八時に点火して二時間四十分で実験終了となり消火されました。

当日は国交省関係者を始め、文科省、地元自治体等も視察に訪れ、林野庁及び中部局からも局長、岐阜署長、飛騨署長等が視察しました。



実験中の木造校舎



実験前の木造校舎

実験結果の責任者からは、「一連の実験で期待した成果は得られ、防火に大きな問題がないことが分かった。」との講評があり、建築基準法の見直しにより、木材の利用促進を期待するものです。

シリーズ

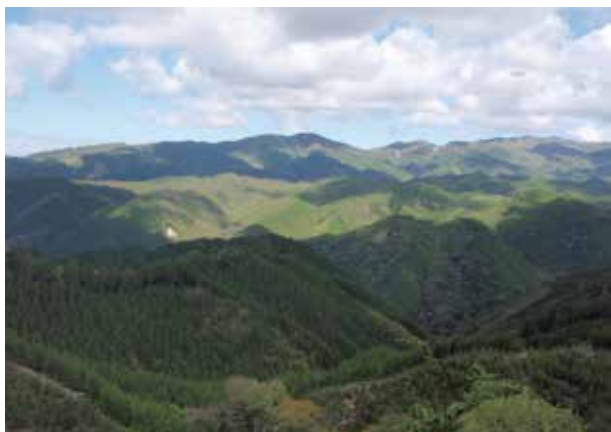
「森林官からの便り」



【東濃署 岩村森林事務所】

佐野 鉄夫 首席森林官

岩村森林事務所は岐阜県恵那市の南東に位置する岩村町に所在しています。



上村恵那国有林を望む

当森林事務所が管轄する国有林野は、国有林五団地（上村恵那 約四千八百八十ヘクタール、岩村 約三百五十ヘクタール、明智 約七十ヘクタール、串原 約二百ヘクタール、小里 約二百三十八ヘク

タール)約五千三十ヘクタールと公有林野等官行造林地十二団地(上矢作町一団地、瑞浪市二団地、土岐市三団地、多治見市一団地、御嵩町五団地)約四百二十ヘクタールとなっています。

管内には、史跡指定されている岩村城跡・小里城跡のほかアライダシ自然観察教育林等があり、地域に密接した国有林管理をしています。



アライダシ教育林の「サワラとミズナラの共生木」

「女城主の城」として知られる岩村城は、岩村国有林内にあり、現在は石垣が残るだけです。戦国の山城遺構が良く残っており、奈良県の高取城、岡山県の松山城とともに日本三天山城の一つに数えられ、日本百名城にも選定された名城です。当署では、恵那市と「いわむら郷土の森」の協定を結び、城址を取り巻く貴重な天然林を守りながら環境教育や歴

史散策等の場として多くの方に利用されています。

また、小里城跡は、小里国有林内に本丸跡があり、今年新たに、居館のあった御殿場跡や尾根上の東磐跡の民有地を含め県の史跡指定がされたところです。岩村城跡・小里城跡とも歴史ブームのなか、観光客も多く訪れており、地域からも観光資源として注目されるなかで国有林と地域との連携が一層求められています。

アライダシ自然観察教育林は、上村恵那国有林内にあり、約十ヘクタールにわたってモミ、ツガ、ブナ、ミズナラ等の天然木が多種多様に広がり、美しい森林景観を作り出しています。現在は、レクリエーションの森として遊歩道が整備され、地元町づくり委員会やNPO団体による自然観察会も定期的に開催をされるなど、多くの森林愛好者に利用されています。



請負監督する森林官



当事務所所員で安全懇談会の様子

当事務所の職員は、森林官一名、一般職員一名、森林技術員二名、非常勤職員一名の五名で、生産請負や造林事業など事業実行のほか、この時期の主な業務としては、来年度以降の事業箇所の確認や境界巡検・各種森林調査等の業務にあたっています。また、官行造林地のなかで四団地約二百六十ヘクタールが平成二十七年年度末に契約期間満了を迎えることから、スムーズに契約完了となるよう本署とも連携して対応を行っているところです。

およそ十年振りの現場勤務を本年四月以降させていただき、当初は戸惑いもありましたが森林技術員を始め当事務所の職員や多くの方に手助けされながら忙しい日々を送っています。今後とも、地域との連携に留意しつつ、事務所職員全員がともに無事故・無災害で今年度を送りたいと願っています。

人のうごき

中部森林管理局人事

十一月一日付

▽計画課保全部付 保全課企画係長

下城 広道

▽木曽森林管理署主任森林整備官(森林ふれあい担当) 治山課国有林治山係長 久保 喬之

▽計画保全部治山課国有林治山係長 森林整備部付 後藤 弘二

▽計画保全部保全課企画係長 東信署主任事務管理官(総務担当) 山田 雅子

▽東信森林管理署主任事務管理官(総務担当) 木曽署南木曽支署主任事務管理官(総務担当) 佐藤 傑

▽木曽森林管理署南木曽支署主任事務管理官(総務担当) 木曽署主任森林整備官(森林ふれあい担当) 山本 通明

行事・会議等の予定

◎木曽地方温帯性針葉樹保護復元取組

第2回検討委員会

12月3日 中部局

◎養成研修(森林官養成科)

12月3～12日 中部局研修所

◎次長等会議

12月12～13日 中部局

この北竜湖の周辺は、小菅部落と呼ばれ、後項に記載します小菅神社の宿坊として修験者で賑わいを見せていた室町時代、春になると村総出の田植えを行い、若い乙女たちも駆り出されました。田植えが終わると流水より温かい北竜湖で足を洗ったことから早乙女池とも呼ばれていました。池には大きな鯉がいて一人の早乙女に恋をしました。春が過ぎると早乙女はいなくなり、池を探して疲れてはた次の春、早乙女と再会することができました。そんな頃から恋愛成就の湖と語り継がれるようになりました。北竜湖を上空から見るとハート型になっており、湖の東の弁天島に架かる橋「早乙女橋」は恋愛成就の橋として多くの恋人が訪れています。



ハート型の北竜湖

北竜湖は、飯山市瑞穂に位置し野沢温泉村と接しています。この湖は、火山の爆発でできた窪地に水がたまった自然湖で面積二・四ヘクタールの湖です。江戸時代は水があふれ住民の命を奪った記録もありますが、明治の初めに堤防が築かれ、当時、「北竜池」と呼ばれていました。昭和三十六年に北竜湖観光協会の設立に合わせ、「北竜湖」と改名されました。湖の水は二十四分の農地を潤す農業用水として現在も利用しています。

◆北竜湖



小菅神社は、白鳳年間（六四五～七一〇）に役行者により開山され、大同元年（八〇六）に坂上田村麻呂が八所権現本宮等を整備したと伝わる古社です。当初は、馬頭観音の化身とされる小菅権現を主祭神と称して熊野・金峯山・白山・立山・山王・走湯・戸隠の七神を祀ったことから八所権現といわれる修験寺院元隆寺です。

◆小菅神社



弁天島から望む北竜湖と妙高山

室町時代の最盛期には上の院十六坊、中の院十院、下の院十一院の総数三十七院があり、戸隠、飯綱と並んで北信州三大修験場として広く信仰され大きな影響力を持っていました。戦国時代は上杉領となり上杉氏から庇護されていました。永禄十年の川中島の戦いで武田勢により焼失しました。その後、江戸時代に歴代飯山藩主松平氏により焼失した建物は再建されました。明治時代に入り神仏分離令により元隆寺が廃寺され小菅神社となり現在に至っています。



重要文化財（国指定）小菅神社奥社

小菅神社の奥社本殿と宮殿は室町時代に建立され国指定の重要文化財、奥社の脇立・板絵は県宝、杉並木は県天然記念物、その他の多くの像・絵馬等が市の文化財となっています。

北信州にお越しの節は神秘の北竜湖、歴史ある小菅神社に足を運んでみませんか。近くには映画「阿弥陀堂だより」の撮影場所となった阿弥陀堂、祈願するとお乳が出ると伝わる神戸のイチヨウ、菜の花公園など見所の多い北信州です。



スギ並木がすばらしい小菅神社参道

北竜湖の上部と小菅神社の周囲は国有林です。近年、飯山市において国有林を含め小菅一帯を「重要文化的景観」として申請する動きがあります。当署としては国有林内のカシノナガキクイムシ・マツクイムシ被害木の処理等により景観の維持を行い、「重要文化的景観」指定の一助となるよう施策をしています。

